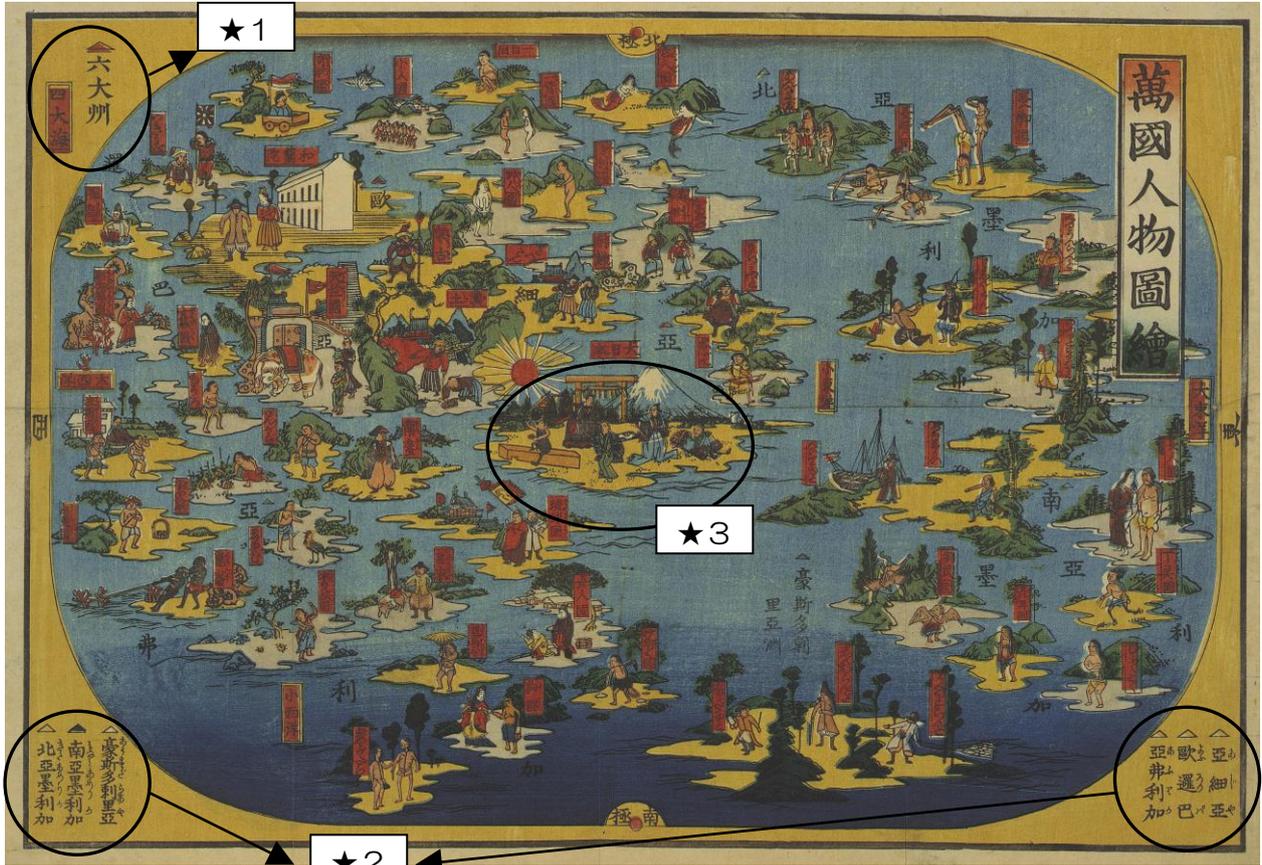


授業で使える当館所蔵地図

No. 5 『萬国人物図絵』
 作成年：不明
 サイズ：38×52cm
 作者：不明



【解説】

年代、作者ともに不明であるが、江戸時代～明治初期のものではないかと考えられる。大陸というより島々よりも、一つ一つの国々が島のように存在しており、そこで暮らす人物の様子とともに描かれている。（南極大陸も描かれていない）大陸や海洋、その他、国々の名称や位置は正確なものではないが、世界の国々と、その国の人々の生活を、当時の日本人がどのように見ていたかが分かる。地図全般は、木版多色刷で、色遣いも鮮明で見やすい。

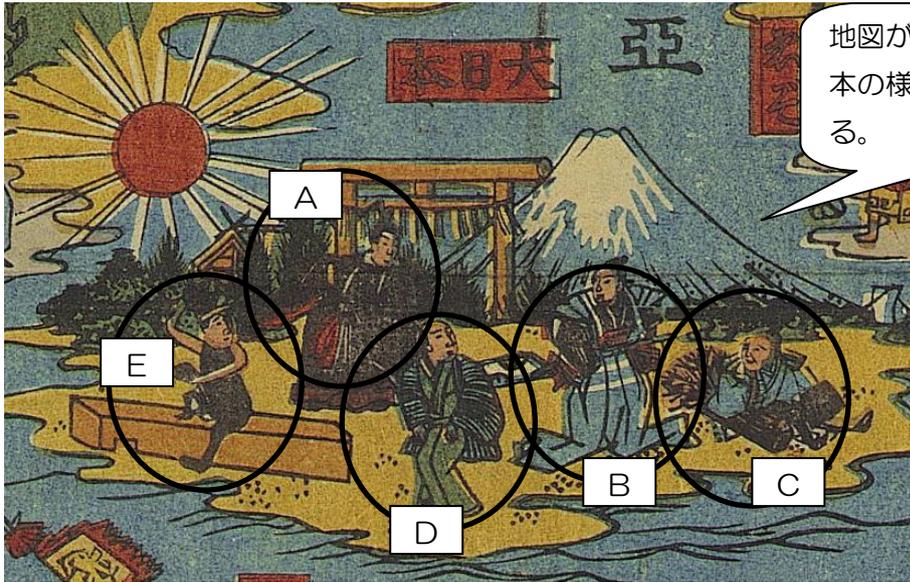
★1

六大州とは、「アジア州」、「ヨーロッパ州」、「アフリカ州」、「オセアニア州」、「南アメリカ州」、「北アメリカ州」の6つを指している。同時に、四大海とは、今で言う三大洋のことで、4つに分けているものと考えられる。地図中には、「大西洋（今でいう大西洋）」「小西洋（今でいうインド洋）」「大東洋（今でいう大西洋）」「小東洋（今でいう太平洋）」の4つに分けて書かれている。「大西洋」と「大東洋」がつながっているイメージを作者がもっていたかどうかは不明である。

★2

六大州をあらわしている。亜細亞→アジア州 欧羅巴→ヨーロッパ州 亞弗利加→アフリカ州 北亞墨利加→北アメリカ州 南亞墨利加→南アメリカ州 豪欺多刺里亜→オセアニア州（オーストラリア）をあらわしている。

★3



地図が描かれた頃の日本の様子が表されている。

その時代のさまざまな身分が描かれている

A：公家・・・朝廷（天皇）に奉仕する貴族のこと。（江戸時代、全人口の1％程度）

B：武士・・・武士は最上位の身分として百姓や町人を支配し、名字・帯刀などの特権をもっていた身分の人。（江戸時代、全人口の7％程度）

C：百姓・・・農民などの身分。年貢を納める義務があった。土地をもつ本百姓と、土地をもたない水呑百姓に分けられた。（江戸時代、全人口の85％程度）

D・E：町人・・・都市に住む商工業者のこと。Dが商人、Eが職人である。（江戸時代、全人口の5％程度）

【人口割合は関山直太郎「近世日本の人口構造」】

【利用の例】

○地図が描かれた時代（江戸時代～明治初期）と現代を比較して、当時の様子を知ったり、考えたりすることができる。

→当時の日本の領域を考えることができる。

（例）大日本の南に琉球国（今の沖縄県）や北にえぞ（今の北海道）が存在しており、当時の支配の及ぶ範囲を考えることができる。

→当時（江戸時代）の外交（外国とのつながり）を考えることができる。

（例）和蘭陀（オランダ）がとても大きく描かれている。日本との関係のつながりの深さが見える。

→当時の世界観を知ることができる。

（例）天竺国（インド）に象が描かれていることから、日本人のとらえの一端を知ることができる。

→地理の学習として、当時の地域や国名を漢字でどのようにあらわしていたかを知ることができる。